

令和元年12月2日
記者発表

令和元年度和歌山県文化表彰について

令和元年度和歌山県文化表彰の受賞者が決まりましたので、お知らせします。

1 受賞者（50音順・敬称略）

(1) 文化賞（文化の向上発展に特に顕著な業績を示し、和歌山県の誇りに値すると認められる方を表彰）

氏名	年齢	住所	出身地	分野
酒井敏行	66	京都府	湯浅町	医学者

(2) 文化功労賞（文化の向上発展に貢献し、その功労が特に顕著である方を表彰）

氏名	年齢	住所	出身地	分野
石黒晶	65	大阪府	和歌山市	作曲家
林雅彦	75	千葉県	東京都	国文学者
宮本勝浩	75	大阪府	和歌山市	経済学者

(3) 文化奨励賞（すぐれた文化の創造と普及活動を続け、将来一層の活躍が期待できる方を表彰）

氏名	年齢	住所	出身地	分野
小柳裕	42	京都府	和歌山市	画家

(年齢は令和2年1月24日現在)

2 表彰式

- (1) 日時 令和2年1月24日（金）14時～
(2) 場所 和歌山県庁本館4階 正庁

3 賞

表彰状、徽章（メダル）並びに副賞をお贈りします。

4 沿革

昭和39年度より実施、本年度で56回目を迎えます。

5 来年度の候補者の推薦

令和2年4月下旬から6月末まで、候補者の推薦を受け付ける予定です。
(どなたでも推薦することができます。ただし自薦はできません。)

担当課	文化学術課
担当者	藤山・栗栖
電話	073-441-2050（内線2050）

令和元年度和歌山県文化賞

酒井 敏行

住 所 京都府京都市
出身地 和歌山県有田郡湯浅町
生年月日 昭和28年4月7日

◎ 業績及び経歴

昭和28年有田郡湯浅町に生まれる。耐久高校在学中に弟を骨肉腫で亡くしたことをきっかけにがん患者を救うことを目指し、昭和49年に京都府立医科大学に入学。その後同大学院博士課程に進む。

大学院修了後、ハーバード医科大学に留学し、発がん機構の研究を始める。多くの臓器の発がん抑制に関与する代表的がん抑制遺伝子である網膜芽細胞腫遺伝子が、突然変異がなくとも過剰メチル化のみで失活し発がんに至るという新規発がん機構を初めて示したことにより、国際的に高く評価される。また、この研究は、その後の「がんとエピジェネティクス」という極めて重要ながん研究の嚆矢となった。

発がん原因分子のみを標的とすることにより、高い効果を有しつつ副作用の少ない理想的な抗がん剤開発が進められている中、氏は世界で初めて標的分子のどの部位にも結合しえて、抗がん効果が最も強い薬剤を容易に見いだすことが可能な「RB再活性化スクリーニング」を独自に開発した。この方法を用いて、製薬企業と共同で三剤のがん分子標的薬を見いだした。この中の一つが、新規MEK阻害剤トラメチニブ（商品名メキニスト）である。

トラメチニブは、進行性BRAF変異メラノーマ（悪性黒色腫）の患者に対し、既存薬に比べて著しく高い治療効果を示した。平成25年に、米国で承認されたのを機に、今では、我が国を含め世界80カ国以上で第一選択薬として使用されている。

さらに、トラメチニブはメラノーマ以外にもBRAF変異非小細胞肺癌や甲状腺未分化がんにも著効を示し、第一選択薬として使用されている。これらの実績から、トラメチニブは日本発の画期的新薬として、国際的にも極めて高い評価を受けている。

若き日の志を貫き、多くのがん患者を救済しうる画期的新薬を発見し、世界のがん克服に大きく貢献している氏の業績は誠に多大であり、計り知れない。

■ 現 在

- 京都府立医科大学創薬センター
センター長
- 京都府立医科大学大学院医学研究科
創薬医学 特任教授

◆ 主な表彰歴等

- 平成5年 和歌山県文化奨励賞
- 平成7年 日本衛生学会奨励賞
- 平成20年 日本衛生学会学会賞
- 平成26年 高松宮妃癌研究基金
研究助成金
- 平成26年 日本医師会医学賞
- 平成26年 京都新聞大賞・文化学術賞
- 平成28年 日本がん分子標的治療学会
鶴尾隆賞
- 平成30年 高松宮妃癌研究基金学術賞
- 平成30年 日本医療研究開発大賞
文部科学大臣賞
- 平成31年 日本薬学会創薬科学賞
- 令和元年 紫綬褒章

令和元年度和歌山県文化功労賞

いしぐろ
石黒

さやか
晶

住 所 大阪府大阪市
出身地 和歌山県和歌山市
生年月日 昭和29年5月24日

◎ 業績及び経歴

昭和29年和歌山市に生まれる。東京藝術大学音楽学部作曲専攻卒業、同大学院音楽研究科修士課程修了。沖縄音楽に取材した「三つの沖縄の歌」と続く「宮古島の二つの歌謡」で創作・発表活動を開始した。

「ハッシュバイ・ソングス」など多数の作品が出版及びCD等で発表されるとともに、JCDA合唱の祭典・おかあさんコーラス全国大会など国内外のさまざまな場で演奏されている。

氏の声楽曲は民俗素材を用いた作曲と現代詩歌への付曲という二つの方向性を持っている。代表作の一つ「紀州うた拍子」「紀伊のこどものうた遊び」「紀伊の国のうた拍子」の三部作やアイヌの素材による「タップカル・キ・キ」は民俗的色彩にあふれ、また谷川俊太郎、まど・みちおの詩による歌曲では洗練された詩句に繊細な音で寄り添っている。

平成25年日本を代表するプロ合唱団である東京混声合唱団により委嘱初演された「愛のうた 恋のうた」は、氏の創作の方向性が一つの結実をみた作品である。さらに翌平成26年には5年の歳月をかけ作曲したHi's Opera Company委嘱のオペラ「みすゞ」が新国立劇場で初演され、氏の集大成として音楽誌上でも高い評価を受けた。そのアリアは、ブラジルサンパウロでも再演されている。

器楽分野では「弦歌三章」が平成31年3月米国ニューヨークのカーネギーホールで上演されスタンディングオベーションを得るなど、優れた演奏家によってしばしばプログラムに加えられ、国際的にも高い評価を受けている。

神戸女学院大学で音楽学部長、大学院音楽研究科長、作曲主任を務めた。NHK学校音楽コンクールや全日本合唱連盟等の審査員を務め、後進の指導にも尽力している。

氏の作曲家、指導者としてのこれまでの功績は、誠に多大である。

■ 現 在

- ・ 作曲家
- ・ 神戸女学院大学名誉教授

◆ 主な表彰歴等

- 昭和57年 東京藝術大学大学院修了作品を同大学が買い上げ「三つの沖縄民謡」
- 平成61年 第10回神奈川芸術祭合唱コンクール入選
「きいろいふうせん」
- 平成18年 第17回朝日作曲賞入賞
「紀伊の国のうた拍子」
- 平成19年 第34回グイド・ダレッツォ国際作曲コンクール入賞
“A Song of a Weaving Shed - from the Ballad of Miyako Island -”
- 平成21年 第16回旧東京音楽学校奏楽堂日本歌曲作曲コンクール入賞
「これが私の優しさです」
- 平成26年 和歌山県文化奨励賞

令和元年度和歌山県文化功労賞

はやし
林

まさひこ
雅彦

住 所 千葉県千葉市
出身地 東京都台東区
生年月日 昭和19年4月20日

◎ 業績及び経歴

昭和19年東京都で生まれ、山梨県で育つ。昭和42年山梨大学教育学部卒業後、東京大学大学院人文科学研究科修士課程修了。昭和49年に同大学院人文科学研究科博士課程単位取得退学。その後、高等学校や大学で教鞭を執り、昭和58年には明治大学教授に就任した。

絵解きや説話文学、説話画に関する研究を専門としており、『日本の絵解き—資料と研究』、『絵解きの東漸』、『日本における民衆と宗教』、など多数の著書を世に送り出してきた。その研究の原点になったのが卒業論文でとりあげた熊野に関連した絵巻「阿弥陀の御忍んき」である。以来、氏は熊野に魅せられ毎年のように当地を訪れ、研究を深化させていった。

特に、熊野信仰の全国各地への勧進に一役かった「熊野比丘尼（くまのびくに）」に関する研究を行い、その成果として多数の図書、論文を発表し、全国各地への展開や庶民への布教活動等の熊野信仰の構造解明に寄与した。この他、高野山の説話文学や道成寺縁起絵巻の研究も知られ、本県の宗教文学、宗教画研究に大きく貢献した。

一方で、「紀伊山地の霊場と参詣道」の世界遺産登録を契機に熊野のもつ豊かな自然・歴史・文化を見直し発信することをめざした国際熊野学会の設立にも携わり、長年代表委員として、熊野地域における学問の発展に大きく寄与した。

また、明治大学と新宮市の連携講座「熊野学フォーラム」の開催にも携わり、熊野の魅力を余すことなく発信した。

氏はこれまで、古より癒やしの地・蘇生の地として日本人の信仰を集めてきた熊野地域固有の自然・歴史・文化などの学際的・総合的な研究を進め、熊野のもつ普遍的な魅力を国内外に発信してきた。その功績は誠に多大である。

■ 現 在

- ・ 明治大学名誉教授
- ・ 中央大学校日本研究所「日本研究」編集委員
- ・ 国際熊野学会顧問

◆ 主な表彰歴等

- 昭和55年 第6回日本古典文学会賞
平成20年 新宮市市政功労者特別表彰

令和元度和歌山県文化功労賞

みやもと かつひろ
宮本 勝浩

住 所 大阪府泉南市
出 身 地 和歌山県和歌山市
生年月日 昭和20年1月12日

◎ 業績及び経歴

昭和20年和歌山市に生まれる。昭和43年大阪府立大学経済学部を卒業し、大阪大学大学院経済学研究科修士課程に進んだ。その後、同大学院博士課程に進学するも、中途退学し、大阪府立大学経済学部の助手となり、平成3年に教授に就任。専門分野は、国際経済学、理論経済学、産業関連分析、経済効果の分析である。

最初の著書である、「分権的経済計画と社会主義経済の理論」は分権的経済計画について数理的分析を記した本邦初の書物である。

昭和58年には、ハーバード大学のロシア研究所の研究員として、中央集権的社会主義計画経済と分権的経済の比較を数学モデルを用いて行った。その研究成果は後年、著書や論文となり、社会主義から資本主義へ移行する経済における数理分析は世界でも非常に少なく、高い評価を受けた。それらの業績により、平成12年に神戸大学より経済学博士号を授与された。

近年、氏は「経済効果」の分析を通じて、経済学の啓蒙活動に力を注いでいる。

平成15年の「阪神優勝の経済効果」を発表したのを機に、その後観光、スポーツ、イベントなどの経済効果を次々に発表し、日本中に「経済効果」の用語を広めた。現在も、国、地方自治体、業界団体、マスコミなどの依頼により、毎年多くの経済効果を計算し発表している。

本県に関するものとして平成20年に和歌山貴志川電鉄の猫「たま駅長の経済効果」、平成27年に「紀の国わかやま国体・紀の国わかやま大会」の経済効果を発表した。

経済学者として、これまで誰も研究していなかった分野の分析に注力するとともに、多くの国民に「経済効果」という言葉を広め、経済学の楽しみを教え、関心をひきおこした氏の功績は誠に多大である。

■現 在

- ・経済学者
- ・大阪府立大学名誉教授
- ・関西大学名誉教授

令和元年度和歌山県文化奨励賞

こやなぎ ゆたか
小柳 裕

住 所 京都府京都市
出身地 和歌山県和歌山市
生年月日 昭和52年5月7日

◎ 業績及び経歴

昭和52年に和歌山市に生まれる。平成12年に成安造形大学造形学部造形美術科を卒業、平成14年に京都市立芸術大学大学院美術研究科修士課程を修了。以来、数多くの個展、グループ展に出品し、作品を高く評価されてきた。

平成16年、平面絵画作家の登竜門とも呼ばれる、上野の森美術館主催の展覧会「VOCA展2004 現代美術の展望-新しい平面の作家たち」にて奨励賞を受賞し、作品が買い上げとなった。平成27年には和歌山県立近代美術館主催の「リアルのリアルのリアル」展で出品作家に選出。翌年に愛知県豊田市美術館でテーマ展出品作家に選出され、新進気鋭の画家として注目を集めている。

氏はデビュー以来、夜景をテーマにした作品を多く描いている。暗闇の中に浮かぶ街灯などの光を描く際、明るい色を使うのではなく、光源となる箇所をあらかじめマスキングテープによって被覆し、周囲を描き込んだ後、テープを剥がすことで白いキャンバス地そのものを露出させ、輝く光の表現とする。このように光を絵の具の不在によって再現する手法は、氏独特のものであり、あえて手を加えないことで生まれるリアリティーは鑑賞者に驚きを与える。また、主題となるものを描かず逆説的に強調する手法は、絵画の可能性を広げるとともに、表現とは何かを鑑賞者に考えさせる深い意図が隠されている。

さらに、夜景だけでなく花の発芽から枯れるまでを追った連作や、使用することで変化していく日用品を描いた作品など、光と同様に形のない移りゆく時間を描き留めようとする作品も手掛けている。氏の探求する「油彩による『光・時間・空間』の現在の表現」は、絵画表現の領域を独自に拡張しようとするものであり、今後もより一層の活躍が期待されている。

■現在

- ・画家
- ・成安造形大学非常勤講師
- ・京都造形芸術大学非常勤講師

◆主な表彰歴等

- 平成16年 VOCA展2004 現代美術の展望-新しい平面の作家たち VOCA奨励賞
- 平成17年 第1回倉敷現代アートビエンナーレ西日本 優秀賞
- 平成18年 第19回ホルベインスカラシッ プ 奨学者

【文化表彰各受賞者からの受賞に際するコメント】

《文化賞 酒井 敏行 様》

この度、栄えある和歌山県文化賞を受賞させていただくこととなり、たいへん嬉しく思っております。私は有田郡湯浅町の出身で、耐久高等学校在学中に、弟を骨肉腫で亡くし、がん研究の道を志しました。京都府立医科大学卒業後、今日までがん研究を続けてまいりました。御陰様で、遺伝子の突然変異以外の新しい発がん機構を見出すことができた他、世界 80 カ国以上で第一選択薬として使用され、極めて多くの難治性がん患者を救済することができる画期的抗がん剤を開発できました。私はこれからも和歌山県の出身であることを誇りとして、地道に研究を続けていきたいと思っております。

この度は、本当にありがとうございました。

《文化功労賞 石黒 晶 様》

このたびは和歌山県文化功労賞を賜り、誠にありがとうございます。

幼い頃から東京のレッスンに通う事もなく、私は大学進学まで和歌山で学びました。創作活動を始めてからは紀州の民俗素材をもとにいくつも作曲しました。そして近年、作品が海を越える機会もありました。そこで実感したのは日本人の私が奏でたい、歌いたい“アジアの感性”を聴いてくださる人々が、海外にもいらっしゃるという事です。

文化・芸術は、それを育んだ風土と離れてはあり得ません。学校で大きな人格的影響を与えて下さった先生、作曲の基礎を授けて下さった師。なつかしい和歌山の地。

郷里への感謝をあらためて覚えます。さらに精進を続けたく思っております。

《文化功労賞 林 雅彦 様》

このたびは、和歌山県文化功労賞を賜りまして身に余る光栄を感じますとともに、今後とも熊野を中心に地道に研究を積んでいきたいと念じた次第です。

思えば、当時未紹介の、インドの神が熊野にやってきて、人間としての苦しみや悲しみを経験後、仏になるという御伽草子絵巻「阿弥陀の御ゑんぎ」を、卒業論文に扱ったのが、深く熊野の地と関わるきっかけとなりました。

その後、多くの方々と国際熊野学会を創設、百十回以上熊野地方を訪れてきました。

これからも「魂のすみか」「日本の原郷」と目される熊野の豊かな自然や歴史・文化を学んでいきたいと思っております。

《文化功労賞 宮本 勝浩 様》

令和元年度の「和歌山県文化功労賞」を賜り大変光栄に存じております。このような立派な賞をいただいたのは、これまで私を支えてくれた妻と子ども、そして恩師、友人のお蔭であると感謝いたしております。私は数理経済学から研究をはじめ、アメリカの大学に留学後移行経済の研究で博士号をいただきました。現在はいろいろな経済効果の分析を行っています。これからも自分の専門分野の研究を活かして、生まれ故郷の和歌山に少しでも貢献できればと考えておりますので宜しく願いいたします。

《文化奨励賞 小柳 裕 様》

この度は大きな栄誉を賜り、誠にありがとうございます。身の引き締まる思いです。ありふれた日常の事物を描くことの多い私ですが、顧みれば、故郷・和歌山での過ぎし日の記憶が喚起されるものを選んで描いている気がします。描くことは、私にとって、自分が来た道筋をたどる旅なのかも知れません。そのような、ごく個人的な思いから続けてきたことを評価して頂き、私の中に、みなさんと分かち合えるものが見つかりつつあるのだと、力づけて頂いた思いです。これまでご助力頂いた全ての方々に感謝申し上げますとともに、さらなる精進をここにお誓い申し上げます。

令和元年度和歌山県文化表彰受賞者

【文化賞】



酒井 敏行

【文化功労賞】



石黒 晶



林 雅彦



宮本 勝浩

【文化奨励賞】



小柳 裕

※下記へご連絡いただければ、写真データをメール送信させていただきます。

担当 文化学術課 藤山

Email fujiyama_m0003@pref.wakayama.lg.jp